

体育祭・文化祭を 隔年で開催している のって高知だけ!?

私の投稿した疑問に
高知新聞が答えてく
れました。

高教組教文部長
吉畑 邦明



高知新聞10月5日付の一面
を見てビックリ!「体育・文
化祭隔年開催真例?」「県内
公立高67%同年なし」「四国
3県は両方実施主流」。その
内容に驚いたのはもちろんで
すが、実はこの記事、私が以
前に投稿した疑問に答えたも
のなんです。「なるほど、高
知取材班―あなたの疑問に答
えます―」という企画(読者
から寄せられた疑問を取材し

て記事にする)が始まり、私
は6月に次のような投稿をし
ました。

『40代男性です。高知県の多
くの高校が、文化祭と体育祭
を隔年開催なのはなぜでしょ
うか?私は県外出身なので、
母校(当時)は毎年両方
ありました。現在、高知県内
の公立高校3年生の娘はコロ
ナの影響もあって様々な学校
行事が次々に中止になってし
まい、かわいそうでなりません
。』

高知で高校教員になってか
らずと疑問に感じていたこ
とです。出身の長野県の母校
は毎年両方開催だったので
「長野が変なのか、それとも
高知が変なのか?」どっちなの
と。

前任校では生徒会担当とし
て文化祭や体育祭の運営に携
わることが多かったのですが、
生徒から「うちの学年は文化
祭が一回だけつもらん。不
公平や」という声が必ず出
てきました。私もまったく同
感で、毎年やるべきだと思っ
ていました。ですからこの記
事を見て、少なくとも四国の
他県は毎年両方やっているこ

とを知って、私の考えは間違っ
てなかったんだ、とホッとし
ました。

記事では、記者が隔年開催
の理由を県内の校長らに問い
合わせるのですが、はつきり
したことを知っている人は誰
もおらず、逆に「分かったら
教えてー」と返されてしまっ
たと伝えていきます。そこで記
者は自社新聞にこの件に関す
る過去記事がないかどうかを
調べ、80年代に共通一次試験
が始まった頃から県内で広が
たことをきっかけに「受験生
の負担を減らすため」という
理由が理由だそうです。

つまり隔年開催は「生徒のた
め」だということになります
。この「心づかい」に感謝した
生徒がどれほどいたでしょう。
これは「配慮」というより、
教員側の都合が優先された結
果ではないでしょうか。もし
そうだったとすると、その
「都合の押し付け」を跳ね返
す力が当時の生徒になかった
ということなのかもしれない

ん。しかし、それを生徒に求
めるのは酷な話です。

そこで私が知りたいと思っ
たのは、当時「それはおかし
いでしょ!」と声を上げ、生
徒の立場からこれをくい止め
ようとする高教組の先輩がい
たのではないか、という点で
す。いったいどのような議論
を経て隔年開催に至ったのか。
高退協の先輩方で当時のこと
について何か知っていること
がありましたら、ぜひ教えて
いただけませんか。

コロナ禍において学校行事
が次々と中止や簡素化に追い
やられました。そんなとき
「仕方ないよ、コロナだから
」と無気力につぶやく教員
がいたとしたら、生徒たちは
不幸です。

今、オンラインでの学びが
注目される中で「学校とは何
か?」「教員には何が求めら
れているのか?」があらため
て問われています。生徒の思
いに寄り添うとはどういうこ
とが、隔年開催の問題は、コ
ロナ後の学校教育のあり方を
考えることと通じているよう
な気がします。

「お遍路」に妻 に託された

土居修

2019年師走、老境に赴
きつつある男と未だ女の域に達
してないながら、熟女と純情と自
己犠牲の精神を高く保って
いる女が、コーヒーカップを前
にして向き合っている昼下が
りの構図。残念ながら女はふ
くよかとは言い難い。たの
しくもあり、おかしきもある。

「容貌に調和がない場合は
不可とする」と自らに課した
遠い日の掟。世間体を憚るこ
となく嘯く私に「年齢を重ね
れば女は変わるぞ」と幾多の
友人が忠告してくれた。それ
を笑い飛ばし、立原正秋のこ
とを借りて「美しく齢を重ね
る女性を俺は愛する」と反
論した記憶。そして、数年後
に理想とする女性に惚れられ、
華燭の典を挙げたに似った。
30数年前の誇らしい青春を不
意に懐かしく思い起こしてい
た。

「このチーズケーキ、おい
しいね」という妻の声で我に
返った。今日に限ってなぜチー
ズケーキがあるのか。57歳に
なる妻がルンルン気分を預張っ
ている姿を訝しく思った。無

理難題をふっかけられそんな
予感。憂鬱を映しながら飲む
珈琲はいつもより味覚に苦まっ
た。「来年は閏年よね」と快活
な妻。
思わず、拍子抜け。身構え
ていた自分が哀れにも感じら
れて、情けなかった。前庭の
裸木の枝間からあたたかい冬
の陽がこぼれていたように思
う。
「そうなの」と応じながら、
閏年であることが62歳の男の
幸せに関連があるのだろうか
と思索した。もちろん、次の
ことばに全要を集中させなが
らである。
「ねえ、お遍路してみない」
「えっ、閏年とお遍路が関
係するが」
「もう、無知なんだから、
ほんと、無知ね」
叱られたのである。無知と
いうことは脳天に突き刺さっ
た。男の美学を標榜しながら
生きてきた人生から血が滴っ
ていくような感覚。コーヒー
カップを持つ手が震えていた。
妻のいうことを総合してみ
ると、お遍路で一番札所霊山
寺から八十八番札所大窪寺ま
でを時計回りに巡ることを順
打ちといい、逆打ちとは反時
計回りに巡ることらしい。閏
年に逆打ちをすること、弘法大
師様に会えると思われている
らというのである。

「逆打ちをしたいが」
「そうよ、やっとわかった
のね」
妻の勝ち誇った笑顔が妙に
憎らしく思えてきた。
「どうして、閏年に逆打ち
をするようになったか」と私
は切り込んだ。慌に入った57
歳の妻を屈服させた。一念で
あった。だが、微塵も動揺す
ることなく、妻は瞳の奥に妖
しげな光を点じながら訥々と
語り始めたのである。
西暦824年のある日、伊
予国砥部の豪族でありながら
も強欲非道であった衛門三郎
がひとりの托鉢僧を竹箒で追
い払った。すると、鉢は八つ
に割れ、僧の姿も見えなくな
り、翌日から一年に一人ずつ、
八年間で八人の我が子が亡く
なった。悲しみにくれる衛門
三郎。ある夜枕元に現れたお
大師様を見て、「あの托鉢僧
は弘法大師様だった」と後悔
する。そして、懺悔の思いと
無慈悲であった過去を償うた
めに田畑を売り払い、弘法大
師様に許しを請う旅に出る。
しかし、四国を二十回巡って
も弘法大師様に会うことがで
きなかった。そこで反時計回
りに巡れば会えるのではと旅
を続け、12番札所熊山寺で病
に倒れるが、薄れゆく意識の
なかで衛門三郎は遂に弘法大
師様との出会いを果たす。す
べての赦しを得て安らかに成

仏したという。その年が閏年
であった。
長い講釈を終えた妻は満面
の笑みを湛えて、チーズケー
キを口に運んでいた。そのチー
ズケーキさえも思わしくなっ
たことを憶えている。
「弘法大師様って、どのよ
うなお方かしら」
「ちよっと待った。弘法大
師様が衛門三郎の子もたち
を呪い殺したっていうが。弘
法大師様がそんなことするか
ねえ」
逆襲の狼煙であった。どう
冷めきっていたが、終生忘
れることのない至福の珈琲に
なること信じて疑わなかった。
「知るわけないじゃない、
そんなこと」
妻の冷徹なことばによって、
ふたたび叱られてしまった。
甘美なひとときは永遠に訪れ
ることはない。
「二度と狼煙はあげないで
ね」
引導さえも渡されたのであ
る。
八十八番札所大窪寺の門前
で金剛杖と持鈴、逆打ち納経
帳と御影帳を購入した今年の
1月12日から、私と妻の巡
礼の旅が始まっている。
「これで、仏になれるかし
ら」
その山門前で妻の不意の
問いかけに、思わず「えっ、
死ぬの」と答えてしまった。



弘法大師出現所・衛門三郎霊跡
(四国霊驗場杖杉庵)

夏が終わるうとしていた。
季節は静かに移ろってゆく。

「仏というのはね、慈悲心
の深い人のことなの。全く、
バカなんだから」
また、叱られた。もう十分
に慈悲深いんじゃないのと告
げたい衝動を辛うじて抑え込
んだ。これ以上妻を増長させ
ないために、私には決死の忍
耐が不可欠であると悟った瞬
間であった。
今、宿毛市にある三十九番
延光寺まで参拝し終えている。
巡礼の途上でも飽きることもな
く妻は私を叱る。その妻が仏
になりえるとするならば、こ
れほど不公平なことはない。
もし妻より先に私が仏の境地
にたどり着くことができれば
と考えた。妻は今後一切私を
叱ることはできないだろう。
思わず、ニンマリ。
「また、何か思いついたの
ね」
「別に」

2020 高退協 文化祭・芸能祭・望年会
12月9日(水) 12:30~14:30
高知城ホール4階
会費 4,000円

高退協初歩き・新春懇親会
2021年1月5日(火)